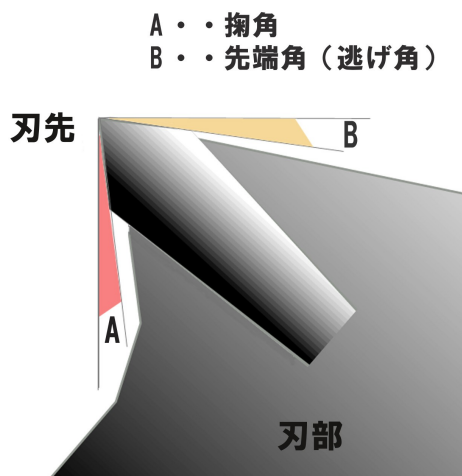


## 刃の切れ味について

- 1、切れ味は、掬角度（**図一A参照**）に一番大きく左右される。  
（掬角度が大きい方が切削抵抗が小さい為に少ないトルクで軽く切れる。）
- 2、逃げ角度（**図一B参照**）も影響されるが掬角度の影響の方が大きい。
- 3、耐久性について被切断物と刃先との硬度差が大きければ刃先の破損さえしなければ  
掬角度が大きく切削抵抗の少ない方が切れ味が長持ちする（下記参照）。  
☆超硬と木とでは硬度差が非常に大きいので **BTS** 型の掬角度と刃先形状では問題にする硬度差では無い、無視できます
- 4、切れなくなるのは刃先の磨耗が進行するからで良く切れる刃物程刃先の磨耗の進行が遅れるので耐久性は良い。
- 5、現状の **BTS** ではその辺の強度も考えて設計をしている。但し、チドリ仕様にしたものは切削中の切粉の排出が良いので切れ味は優れているが、切削中に刃部（刃先を含む）の振動が両側刃（心刃）より若干多くなるはずで原理的には刃先磨耗が少し大きくなる方向です、しかし現状の **BTS** の刃型強度でチドリ仕様にしても問題が無いと思われそうですが一度実地テストして比較検証して見るのも良いと思われそうです。
- 6、本当のプロ（刈払機を上手に使用するプロ）が使用されるのであればチドリ仕様の方が切れ味が良く喜ばれると思います。



☆立木切断にはアサリを大きく、☆下刈りにはアサリを小さく

※ 長持ちする意味とは・・・刃物を目立てするまでの1枚当りの切断面積が大きい、すなわち時間当りの仕事量が多くなる。

☆ご注意；プロ仕様の刃物ですので、地面への接触及び石礫等との接触は考えていません。